第 301 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞

とらいあんぐる

2015 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

「プレゼント」

３０１号です。

この先､何号まで続くだろうか･･･。

それを考えるのは、少しこわいことです。

母が死ぬまで書き続けたように、私も死ぬまで書き続けるのでしょうか。

私に、はたしてそれができるのでしょうか。

弱気になることがあります。

しかし、もし死ぬまで書き続けることができたら、それはとても幸せなことに違いないとも思います。

そう考えてはじめて､「ああ、母は実は幸せな人だったのだ」と、気づきます。

「とらいあんぐる」は、皆さまよくご存知のように、前半がエッセイ、後半がお知らせになっています。

教室で発行する新聞ですから、本来、お知らせが主です。

お知らせは、皆さまにお伝えしなければいけない情報を載せるという、分かりやすい目的があります。

対して、エッセイの方は、やや目的の分かりにくいものになっていると思います。

本来の意味からすれば、お知らせの部分だけあれば十分ともいえます。

私がまだ中学生の頃、母にこうきいてみたことがあります。

「お母さんは、どうしてエッセイを書いているの？」

母は沈黙し、少し考えてから、いいました。

「校長先生がどんな人なのか・・・どんなことを考えている人なのか・・・知っていただく必要があると思っているの」

そして、こうもいいました。

「できることなら、生徒さんとも、生徒さんのお父さまお母さまとも、もっとたくさん会って、たくさんお話をしたいと思っているの。でもね、なかなかできないでしょう？　だから、一方的になってしまうけれど、こうしてお母さんが、その時々、思っていることを書いて伝えているの。なかなか会えなくても、ああ、江口寿子先生って、実はこんな人なんだ、今、こんなこと考えているんだ、って分かっていただけるでしょう？」

そして、母は決意表明をするように、決然というのです。

「だから、どんな時も真剣に、自分の一番正直な気持ちを書かなくてはいけないわ！」

決して、趣味で書いているとは思っていませんでしたが、そんな使命感があったとは・・・少し驚き、おおいに納得しました。

どんなに体調が悪いときでも、決して休むことなく、毎号、書き続けている理由が、やっと分かったような気がしました。

先月号で書かせていただきましたが、私は母が亡くなるまでの７年間、母のもとで修行生活をしていました。

先月号を書いた時には、母が私に「とらいあんぐる」を書かせようとしはじめたタイミングが、私の息子が幼稚園に入った時であったと、書きました。それは本当です。

母は、少し自由な時間ができた私に、新たな役割を与えたのだと、つい最近まで思っていました。

しかし先月号を書いた後、亡くなる７年前という時期について、１つ、思いあたりました。

母は亡くなる８年前、心肺停止に陥り、救急搬送され、人工呼吸器につながれ、生死の境をさまよう体験をしていました。

生き返ったのは奇跡だと、かかわったお医者様すべてが、口をそろえておっしゃいました。

思えば、亡くなる７年前といえば、その騒ぎがひと段落して、母の体調が戻りかけた頃でした。

母は、あのとき、自分の死を覚悟したはずです。自分の死後のことも、強くイメージしたはずです。

そして、自分が死んだ後も、この「とらいあんぐる」が続くことを、願ったのかもしれません。

それで急に、私に「とらいあんぐる」を書けと、しつこくいい出したように思えます。

私は、先月号を書いてようやく、母の真意にたどりつけたのかもしれません。「遅い！」と、母が怒っていることでしょう。

７年間、母の原稿書きを手伝い、その後の３年間、一人で書いてみて、何が一番、重要で、そして難しいかは、身にしみています。

それは「何を書くか」です。

「何を書くか」にくらべたら、文章を作ることは、さほどたいへんなことではありません。

テーマが決まれば、９割、できあがったようなものです。文章におこすことは、いってみれば、おまけの作業です。

先月号では、文章を作る作業のことを書きましたが、本当に時間と神経を使ったのは、テーマを決める作業でした。

母の名前で出したエッセイは、もちろん母が考えたテーマです。ですが、「何をどう表現するか」についても、母は弟子に多くの課題をつきつけてきました。

試行錯誤の中で、母が繰り返し、私にいったことは、今思うと、次の３つだったように思います。

１つ目は、「メッセージをこめなさい」でした。

ただの日記やブログになってはいけない、ということです。かならず「自分はこう思う」、「これを伝えたい」という核を持たなければなりません。「核のない文章は、わたあめと同じ。いくら分量があっても、あとに何も残らない」とも、いっていました。

２つ目は、「かっこつけてはダメ」でした。

自分をよく見せようとか、感心させようとか、そういうことを考えてはいけない、ということです。「むしろ、自分の弱いところ、ダメなところ、無様なところを、すすんで見せなさい」というのです。実際、母は自分の過去の失敗や、自らが負った病気について、積極的に書いていました。

書いていて、決して楽しいものではなかったはずです。

いまだ母の死を乗りこえられず、ともすれば涙を流している私が、ここでぐじぐじと弱気なことを書いているのも、この２つ目の教えを忠実に守っているからです。

３つ目は、「批判や誤解をおそれない」でした。

３つの中で、実はこれが一番、難しいのかもしれないと思います。批判や誤解をおそれれば、慎重になります。言葉も選びます。それは決して悪いことではありませんが、読み手の反応を気にしすぎれば、表現や内容が守りに入ってしまいます。

母は、いいます。

「本当にそう思っているなら、それを書くべき。たとえ間違っているかもしれなくても、本心なら書かなくてはならない。もし後から自分の考えが間違っていると分かったら、そのときは、訂正して、心から謝るべき。人間だもの。間違えることだってある！」

母は、あっけらかんと、笑います。

「自分の意見をいうことも勇気、自分の間違いを認めるのも勇気」

自分がどういう人間で、その時々、

何を考えているか、伝えることが目的の人ですから、そこはとても潔いのです。

正直にいいますと、７年間、母のもとで修行をし、３年間、一人で書いてもなお、まだ私には荷が重いような気がしています。

しかし、ものかきでも何でもない人間が書いた、何でもない文章を、多くの方が読んでくださるということが、とてつもなく幸せなことだ、というのは、今、私が一番感じていることです。

先月、３００号を発行し、何通も激励のお手紙を頂戴しました。

今までも、「とらいあんぐる」について、多くの方からお手紙を頂いてきました。お返事を書く時間は、今の私にとって、本当に幸せな時間です。

母も結局、その喜びがあったから、書き続けることができたのだと思います。

そして今、「とらいあんぐる」に救われているのは、間違いなく私だと思います。

もしかしたら、「とらいあんぐる」は、母から私への大きなプレゼントだったのかもしれません。

１０年目にしてようやく、母の真意にたどりつけたのだとしたら、またも「遅い！」と、母が怒っていることでしょう。　　（江口　彩子）

「とらいあんぐる」のエッセイをまとめた冊子は、すでに３巻発行されています。

「あなたが生まれた日」

「アンコール」

「青空」

ご希望の方にはお分けできますので、本部にお問い合わせください。

◆「第１０回ジュニア・コンサート」が開かれました

４月２８日（火）に、「第１０回ジュニア・コンサート」を開きました。

出演された生徒さん方、本当に素晴らしい演奏を、ありがとうございました。また、お忙しい中、足をお運びくださり、おしみない拍手をおくってくださった方々にも、心から御礼申し上げます。

来年は、５月のプリドノフ先生来日にあわせて、「第１１回ジュニアコンサート・オーディション」を開く予定です。例年と時期が異なりますので、ご注意ください。

今年、挑戦してくださった生徒さんには、ぜひまた挑戦していただきたいと思っていますし、新たに挑戦してくださる生徒さんも、大歓迎します。

このオーディションは、小学校４年生以上の一音会の生徒さんなら、どなたでも挑戦できるものです。難しいオーディションではありますが、プリドノフ先生ご夫妻から演奏についての丁寧な講評をいただける等、結果によらず、得られるものは大きいはずです。ぜひ１年後の目標の１つになさってみてください。

◆「おんがくかい」があります

５月３１日（日）に、「ひびきホール」で「おんがくかい」が開かれます。「おんがくかい」は、教室のスタッフによるコンサートです。

声楽の加藤裕子先生が中心となり、小さなお子さまでも楽しめる、とても楽しい会を計画しています。手遊び歌で、演奏に参加したり、楽器を体験したりすることもできます。

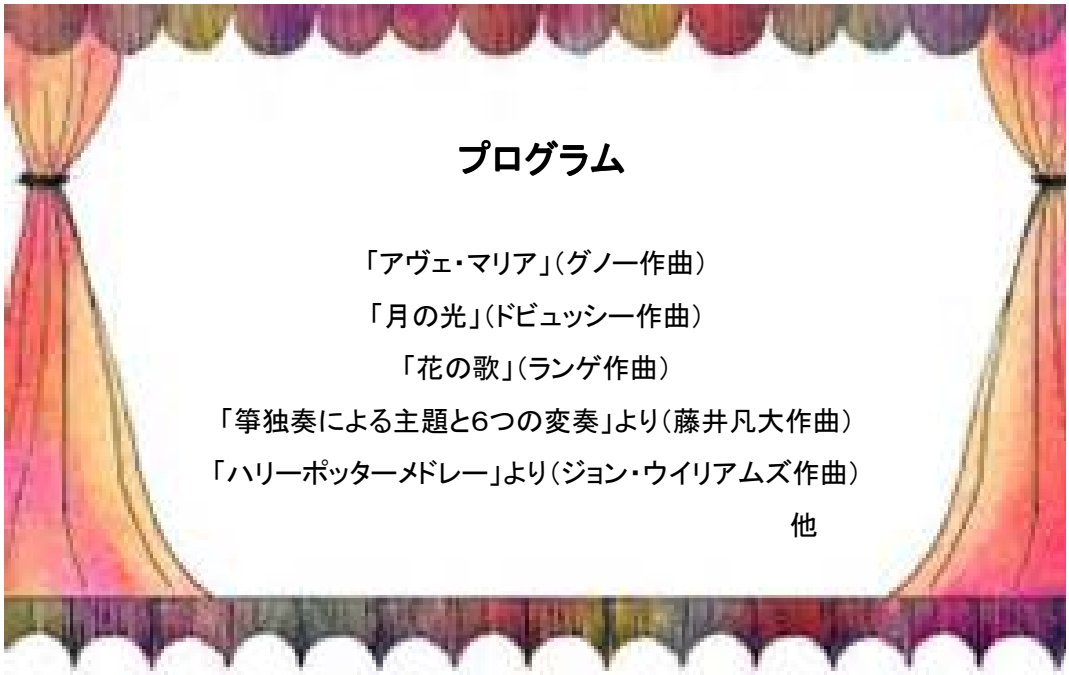
歌にピアノにお琴にクラリネット、もりだくさんのプログラムです。曲も、皆さまに親しみやすい曲ばかりです。

ご希望の方は、ショパンはうす受付にお申し込みください。チケットは、小学生 500 円、中学生以上の大人 1000 円（未就学児無料）です。時間は以下の通りです。

第１回　10:30 開場　11:00 開演

第２回　13:30 開場　14:00 開演

一音会の生徒さん以外の方も、もちろん入場できます。お一人でも多くの方に、足をお運びくださいますよう、願っています。



◆今年度のスケジュールについて

すでに２０１５年度のレッスンスケジュールが、お手元にわたっていると思います。まだお持ちでない方は、担当の先生もしくは、ショパンはうす受付に、お申し出ください。

今年度は、１２月２３日（祝）に「音楽祭」を予定しています。会場は、「亀有リリオホール」です。「音楽祭」は、ピアノのソロ以外の演目の発表会であり、主にオペレ

ッタ発表となります。他、合唱や合奏の発表も、おこないます。

例年は、１１～１２月に「ピアノ・トライ」をおこなっていますが、今年は「音楽祭」という大きな舞台と時期的に重なりますので、「ピアノ・トライ」を来年１月下旬～２月にさせていただきます。

「ピアノ・トライ」の時期に関しましては、「発表会後、準備の時間が足りない」、「秋は学校行事が多く、たいへん」といったご意見も、これまで頂戴していましたので、今年度、試験的に、ピアノ発表会のちょうど真裏にあたる時期におこない、また皆さまのご意見、ご感想をおきかせいただけたらと思っています。

上記の点、例年と少しスケジュールが異なりますので、ご注意ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp　　電　話：03-3954-9999

＊　お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後７時～9 時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊　ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人 10 分を目安とさせていただいています。ご了承ください。